

報告書（サマリー）

**【withコロナ時代】
ICTを活用した認知症オンラインカフェ運営継続支援事業
「新しい生活様式に応じた認知症カフェの運営支援」**

実施団体

認定NPO法人 Link・マネジメント

実施時期

令和2年度（R2.10月からR3.3月）



实施概要

【withコロナ時代】 ICTを活用した認知症オンラインカフェ運営継続支援事業 「新しい生活様式に応じた認知症カフェの運営支援」

背景

背景：新型コロナウイルスの影響により認知症カフェが開催中止となる。
→認知症状態にある方も、地域で支えてきた市民にも不安な状態が続き、人とつながる必要のある人が安心してつながる機会が減少。
(身体機能や精神機能が低下する当事者や、支援者のモチベーション低下など)

課題

課題：オンラインでの開催のハードル（使い方がわからない、不安が強いなどの不安や拒否感がある。）

ニーズ

ニーズ：zoom機能の使い方、相談窓口の設置、研修、wi-fi環境整備などの支援モデルを構築し、全国の認知症カフェの課題解決の一助となることを目的に「地域」×「認知症」×「オンライン」の普及が求められた。

6か月間の主要な成果

1：オンライン認知症カフェ開催に関する相談窓口の設置

平時

5件/月

コールセンター設置効果

最大 73件/月

2：認知症カフェ・オンライン開催セミナー12回

TOTAL 129名参加

参加
団体

24カフェ/33カフェ

3：オンライン環境の貸し出し

・モバイルWi-Fi

60件

・ZOOM有料アカウント支援22件

もっとも重要な成果

33カフェ運営団体

全て開催中止



27カフェ始動

(12カフェ実施再開+15カフェ準備開始)

事業内容別成果

1：オンライン認知症カフェ開催に関する相談窓口の設置

相談総数 **325**件

2：認知症カフェ・オンライン開催セミナー

参加者理解度 **99%**

延べ参加者 **129**名

3：オンライン環境の貸し出し

ZOOM有料アカウント支援 **22**件

モバイルWi-Fi **60**件

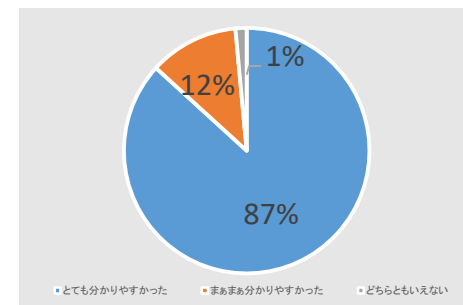
ipad貸し出し **17**件

集音機 **12**件

カメラ（周辺機器含む） **12**件



相談窓口の様子



セミナー理解度



貸出機器例

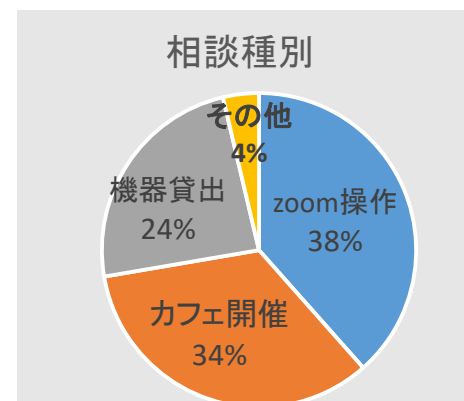


実施内容と具体的成果

1 : オンライン認知症カフェ開催に関する相談窓口の設置

【相談種別】

- | | |
|---------------------|------|
| ① オンライン認知症カフェ開催について | 110件 |
| ② zoom操作について | 125件 |
| ③ 機器貸し出しについて | 78件 |
| ④ その他 | 12件 |



【相談内容例】

- ・ 休止中のカフェをオンラインで開催したいが、どのように開催したら良いかわからない。
- ・ 他のところでの開催例が知りたい。
- ・ 認知症カフェの運営団体がなかなか積極的に動いてくれないが、どのようにしていったらいいか。
- ・ zoomの設定でエラー表示が出てしまう。何がいけないのかわからない。
- ・ zoom画面で話す人を大きく映し出したい。やり方を教えてほしい。
- ・ パソコンを複数台持ち込んだときのハウリングを防ぐ方法が知りたい。

2 : 認知症カフェ・オンライン開催セミナー

全12回開催

延べ129名参加

(市内27カフェ+市外26カフェ)

- ・ 認知症カフェ運営者向けスタートアップセミナー 全3回
- ・ 認知症カフェ運営者向け「使い方」セミナー 全4回
- ・ 認知症カフェ運営者向け「交流会」セミナー 全3回
- ・ 認知症カフェ参加者・運営者合同セミナー 全2回



3 : オンライン環境の貸し出し

延べ123件貸与

具体的な支援事例

例1) まずはオンラインでつながる体験をしてみよう、ということで認知症カフェ支援を行いました。ご自宅から参加の高齢者にはケアマネさんが感染対策をして訪問したり、地域のデイサービス、小規模多機能、特養などの各地の拠点をつなぎ、地域全体でつながる事ができました。

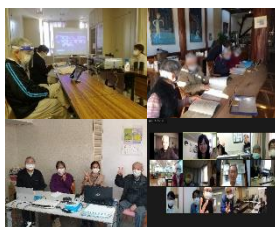


例2) 以前は高齢者施設の交流スペースをお借りし施設の入居者と地域の方が参加をする認知症カフェを開催していました。コロナウィルスの影響により施設に入る事が出来なくなり、オンラインを通じて、施設、地域の公民館、ボランティア室、ご自宅をつなぎ、これまで参加されていた方同士がつながり、そして新たな仲間も参加しやすくなりました。



ZOOM有料アカウント支援	22件
モバイルWi-Fi	60件
ipad貸し出し	17件
集音機	12件
カメラ（周辺機器含む）	12件

例3) こちらのカフェは各自宅から一人ずつ参加している方がほとんどです。高齢の方が多く当初は操作が難しいのでは…など心配がありましたが、実際にはipad操作方法やzoomログイン方法など練習からサポートすることで、皆さん自宅から毎回スムーズに参加する事が出来ています。



例4) オンラインで開催するにあたり、やはり最初はトラブルが多く見られ、ハウリング声が聞こえない、進行がスムーズにいかない…など。これまでやってきた対面での認知症カフェのように皆が満足する形になるのは1回では難しいものでした。反省会を都度おこない、回を重ねるごとに少しずつ良くなっていく体験を積み重ねていきました。



認定NPO法人

Link・マネジメント

【参考】 セミナーで用いた資料例
～認知症カフェの背景と価値～

認知症の人の介護者への支援（新オレンジプラン）

【基本的考え方】

認知症の人の介護者への支援を行うことが認知症の人の生活の質の改善にも繋がるとの観点に立って、特に在宅においては認知症の人のもっとも身近な伴走者である家族など、介護者の精神的身体的負担を軽減する観点からの支援や、介護者の生活と介護の両立を支援する取組を推進する。

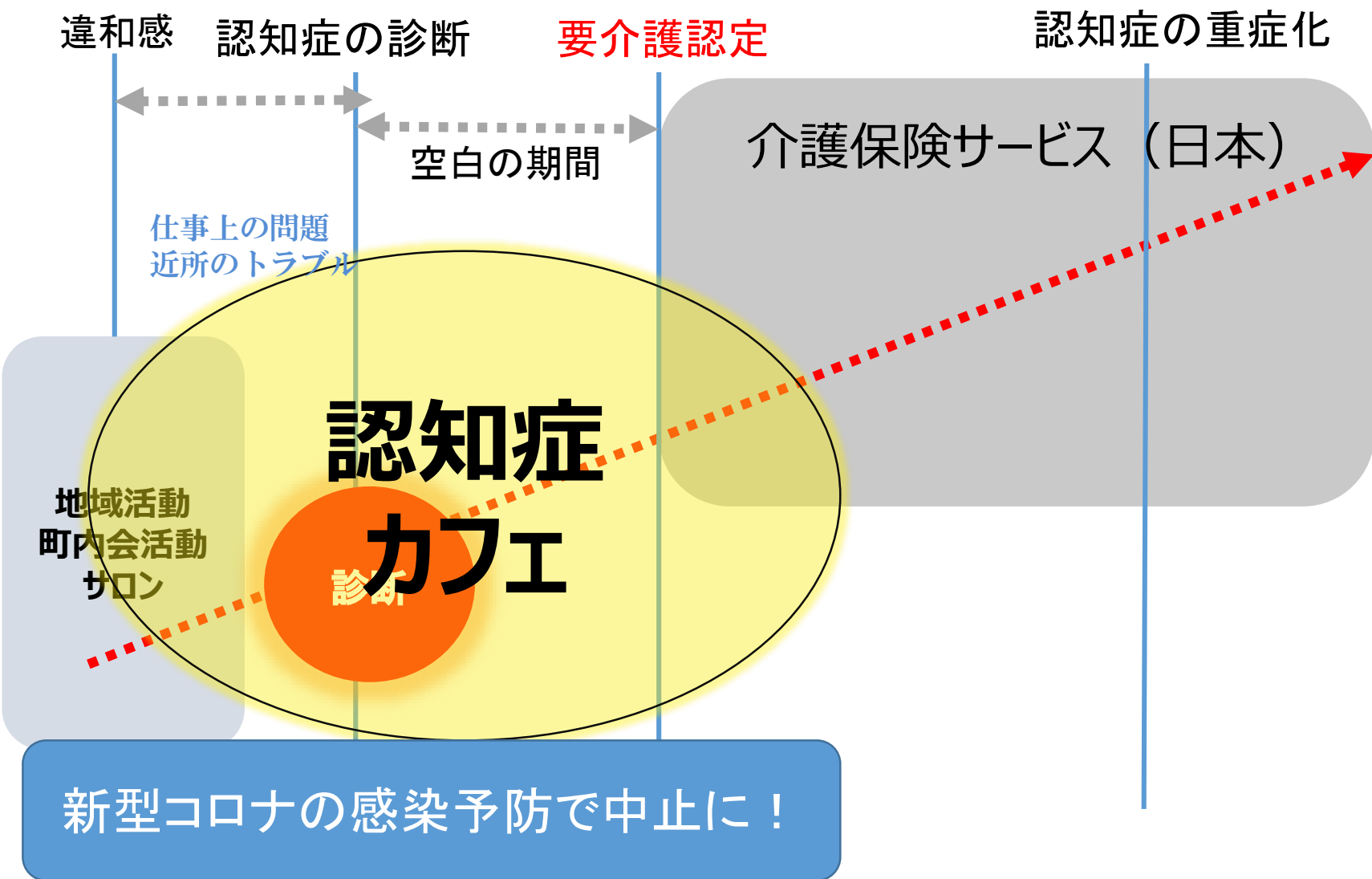
（認知症の人の介護者の負担軽減）

●認知症の人の介護者の負担を軽減するため、認知症初期集中支援チーム等による早期診断・早期対応を行うほか、認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う認知症カフェ等の設置を推進する。

- 認知症の人の地域での日常生活および家族の支援の強化を目的としたもの
- 『認知症の人・家族・地域住民・専門職等の 誰もが参加でき、集い、つながり、認知症の人の家族の介護負担軽減を図る場』として国の計画にあげられた。

～切れ目のないケア実現に向けたインフラとして～Link

日本に求められる認知症カフェとその位置づけ



認知症カフェがもたらしていた効果

	認知症の人	家族	地域住民・ボラ	専門職
<p>カフェの場や特色がもたらす効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 気軽に通い、参加できる場ができた • 飲み物や食事をとりながら、リラックスできた • 楽しくて笑えた • 役割があり、うれしくなった 	<ul style="list-style-type: none"> • 病院や施設に通うよりも気軽に参加できた • 息抜きできた • 本人の笑顔や活動をみると優しい気持ちになれた • 専門職の人が身近に感じられた 	<ul style="list-style-type: none"> • 認知症が特別なものでないことを知ることができた • 近所の交流が増えた • 認知症を自分の近い将来のこととして身近に考えることができた 	<ul style="list-style-type: none"> • 自身の普段の姿勢やケアを振り返る場となった • 認知症の人と家族を支える焦点が具体的に絞り込めた • 本人・家族・市民から元気をもらった
<p>カフェに集う人がもたらす効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 介護を受けることやサービスを使うことへの不安が減った • 色々なサービスを使おうという気持ちになった 	<ul style="list-style-type: none"> • 医療機関や行政窓口と比べ躊躇なく相談に行けた • 介護家族同士で悩みを吐き出せたり、先達の工夫を知ることができた 	<ul style="list-style-type: none"> • 継続的にサポートができる • 他者のカフェでの関わり方が参考になった 	<ul style="list-style-type: none"> • 認知症カフェを通して、街づくりを考えるようになった • 自分も同じ地域の住民であるという意識が強くなった

相模原市がまとめた「認知症カフェ」[Link](#)

(下記のいずれにも該当する場)

1. 認知症の人(疑い含む)が安心でき、自分の役割や居場所を持つことができるなど生き生きと過ごせる場
2. 家族が交流や相談等を通してホッと安心できる場
3. 本人・家族・地域住民・専門職など誰もが対等な立場で参加し、交流を図り、社会とつながることができる場
4. ボランティア(キャラバン・メイト, 認知症サポーター, 一般市民等)が活動できる場

ソーシャルサポート

＝社会的支援（非専門職からも）

ソーシャルネットワークに入れなくなった、つながらない、隙間にはまると…

孤立化、孤独、情報が入らない、サービスがない。

コロナ渦により、「今」再浮上している問題

オンライン活用でも「認知症カフェ継続を！」

これまでにない形でのピアサポート機能を基盤にした支援

新たな「当事者性」：かかわる人すべてが同じ立場

経験や専門を権威化せず、すべての人が水平な関係でいられる場

認知症カフェでは、何を支援するか

①感情（情緒的）のサポートが得られる

肯定的な感情になる

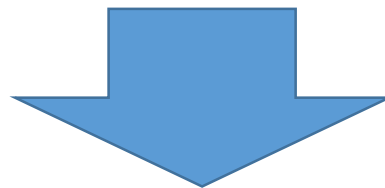
②情報（手段・道具的）のサポートが得られる

ほしい情報が得られ、実際的な助けが受けられる

(Denis2003, Solomn2004)

オンライン環境とオンライン活用の支援こそ、必要ではないかと考えての事業！

- 2月以降、緊急事態宣言の流れから市内の認知症カフェは12月まで中止の判断



- 10月頃より、少しずつ「認知症カフェ」再開の動きも。
- しかし、「万が一」を考えれば「開催」はリスク。



- 高齢者支援センター(包括)による「配布物」
- 小規模での開催
- **オンラインの試み**

オンラインの課題

- そもそも「スマホ」も**使えない方**が多い
- インターネットの**環境**がない
- 孫や子供は使っているけど、パソコンを使うなんて…
- ZOOM(ズーム)? 食べ物?
- そこまでする必要があるのかわからない
- 部屋の様子を見られたくない
- **お金**がかかる(開催者も・参加者も)
- お茶やコーヒーが出せないのはカフェじゃない
- 裁縫など一緒に行うようなプログラムはできない

今回の事業は、この部分を解決するための取り組みです

サロンとの違い

ふれあい・いきいきサロン	認知症カフェ
高齢者が中心	だれでも、子どもも若者も
高齢者の孤立防止	地域全体の寛容さの醸成
地域ネットワークづくり	ケアネットワークづくり
活動(アクティビティ)中心	会話と講話が中心
公民館や自治会館が多い	どこでも開催
地区社会福祉協議会や民生児童委員等が中心	既存団体の枠を超えて誰でも協働

オンライン開催によって、多世代が参加しやすくなった！

家族会との違い

認知症の家族会	認知症カフェ
介護家族のみ	だれでも、子どもも若者も
家族のピアサポートに期待	ピアサポートと同時に 地域のソーシャルサポートに期待
介護体験や経験の共有	認知症への共感
閉鎖された空間	解放された空間
家族が運営	専門職、家族、地域住民などが 協働で運営

P
LAN

実施計画

いつ・誰が	何を行う
コアメンバーミーティング	次回の具体的な対策案と役割分担

D。

認知症カフェの
開催

認知症カフェの
PDCAサイクル

A
ction

改善案

いつ・誰が	何を行う
コアメンバーミーティング	課題や気になったことの分析

C
heck

評価

いつ・誰が	何を行う
事後ミーティング(直後)時に運営メンバーから	気になったことや課題を出し合う